

6. 矢上・松原付近の火成岩

地域 長崎市矢上——松原

交通 県営バス 矢上・観音口下車

地形図 長崎 (1/50,000), 長崎東北部 (1/25,000)

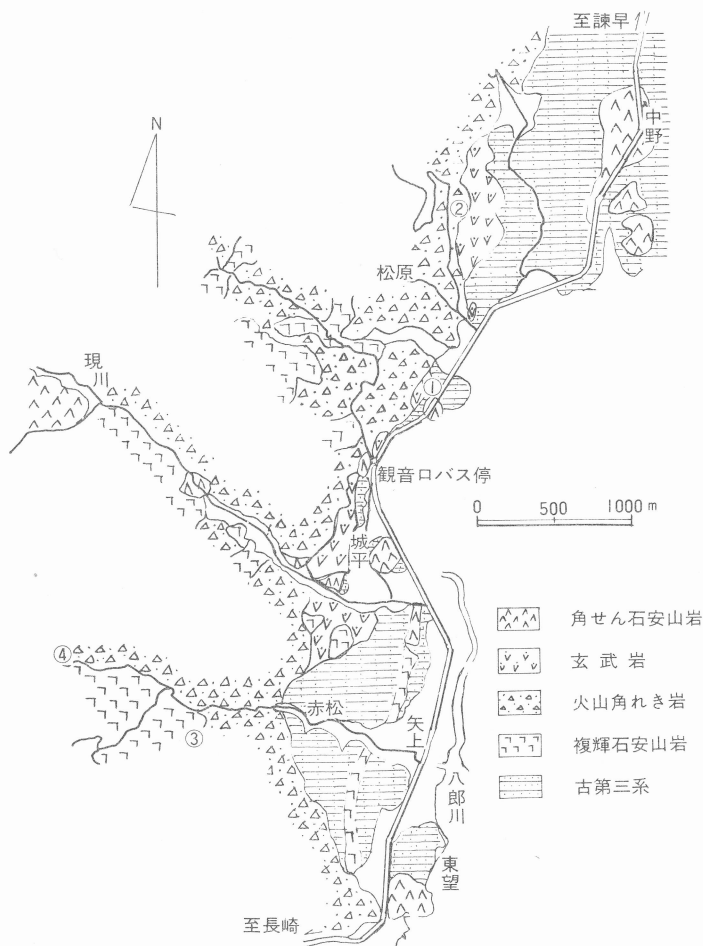
この地域の火成岩は、古第三紀層に貫入した。新第三紀中新世のものと考えられる貫入岩類と、第四紀の長崎火山岩類である。

貫入岩には、角せん石安山岩(中野、城平、現川、東望)、玄武岩(松原東北から城平の南)、輝石安山岩(矢上西方に南北に帯状にのびる)があり、長崎火山岩類は、凝灰岩、火山角れき岩、複輝石安山岩へ移行し上部ほど溶岩流が多くなる。火山角れき岩は、下部は角せん石安山岩質であるが上部はしだいに輝石安山岩質に変わる。これらの火成岩は、熱水による変質を受け粘土化したり、緑泥石を生じて緑色をおび、黄鉄鉱や方解石などの二次鉱物を生じている部分が多い。この変質帯は、長崎市北部や西北部につながる一連のものであろう。

①では、国道のそばに角せん石安山岩の岩床があり、西へ100mほど入った宅地造成地には、古第三紀の地層に平行に貫入した玄武岩岩床がある。この玄武岩は1cm大の斜長石(曹灰長石)と1mm前後の石英をふくむのが特徴的で、風化面は赤紫色を呈する。

松原の北東、②の地点では、玄武岩岩床をおおう凝灰質の砂岩や泥岩、火山角れき岩が観察され、茂木付近と似ていて、長崎火山岩類下部の様子を見ることができるといえる。

赤松の西方、③の地点では、火山角れき岩をつらぬく、優黒色の玄武岩質複輝石安山岩の火道が見られ、上部はキノコ状に広がって流れだしている。また、④の地点(田川内の川岸)では、流れだし



矢上・松原付近の火成岩の分布

た溶岩が、火山角れき岩を直接おおう所がある。 (鴨川信行)